

(仮称)横須賀港新港地区公有水面埋立事業
環境影響予測評価実施計画書についての
意見の概要等

令和7年3月24日

**(仮称) 横須賀港新港地区公有水面埋立事業環境影響予測評価実施計画書
についての意見の概要等**

1 手続及び経緯

- (1) 実施計画書の提出 令和 7 年 1 月 14 日
- (2) 実施計画書の縦覧期間 令和 7 年 1 月 31 日 ～ 3 月 3 日
- (3) 実施計画意見書提出期間 令和 7 年 1 月 31 日 ～ 3 月 3 日
- (4) 実施計画意見書提出数 7 通

2 地域別の実施計画意見書提出状況

区分 地域	提出された 実施計画意見書数	左のうち、関係地域からの 実施計画意見書数
横須賀市	7 通	7 通
合 計	7 通	7 通

注： 実施計画意見書の提出者住所により区分した。

3 項目別の意見数

項 目	意見数	割合
事業内容	2 件	5.6%
大気汚染	2 件	5.6%
水質汚濁	2 件	5.6%
土壌汚染 ※評価項目には選定していない	3 件	8.3%
騒音・低周波音	3 件	8.3%
振動	1 件	2.8%
悪臭 ※評価項目には選定していない	3 件	8.3%
廃棄物・発生土	—	—
水象	—	—
植物・動物・生態系 ※（植物）については評価項目には選定していない	9 件	25.0%
景観	—	—
レクリエーション資源	3 件	8.3%
温室効果ガス	2 件	5.6%
安全	1 件	2.8%
その他	5 件	13.9%
合 計	36件	100.0%

注 1：実施計画意見書 1 通の中に複数の項目にわたる意見があれば、それぞれ該当する項目に分類しているため、項目別意見数の合計は意見書提出数を上回っている。

注 2：割合は四捨五入の端数処理としているため、項目別の計と合計が一致していない。

4 意見の概要

項目	意見概要
事業内容	自然環境に恵まれた横須賀市にあります「うみかぜ公園地区」は、地元の方のみならず、県外からも釣りや海の遊び、自転車やバスケ、スケボー等を楽しめる方が来場される人気のレジャースポットとなって居ります。このような多様性を兼ねた稀有な公園はありません。 2月23日の説明会にも参加させて頂きまして、現在の埠頭の状況や今後の展望などを確認させて頂きましたが、浚渫や埋め立てによる海生生物や藻場への影響が非常に懸念されました。周辺は東京湾でも希少になってしまったカレイやアイナメの繁殖地でもあります。また漁業ではミル貝やアサリ、わかめなどに悪影響が懸念されます。遊漁では年間を通じてアジ、タチウオのポイントでもあります。 近隣には米軍基地もあり特に浚渫が心配です。 又、ソーラス条約の影響や、沖堤渡船の禁止、釣り禁止区域の拡大など、現在横須賀・三浦地区の釣り場が減少し、私が子供のころのように、釣りが楽しめる環境が少なくなっている事を肌で感じております。 今回の埋め立て事業により、横須賀の海の環境の悪化や、更なる釣り場の減少などが気になり、意見書を提出させて頂きました。 横須賀市の魅力は豊かな自然にあるかと思いますので、未永くこの環境が守られますことを望みます。
	事業の目的と環境負荷について 今回の説明会で、事業計画を知りました。その際にも発言しましたが、事業の必要性が理解できません。海や大気的环境を人間の事情によって汚染して経済を活性化させるという動きはもはや時代遅れかと思います。ふだん、現地近くで生活していて、作っては壊す工事が繰り返されており、本当に必要なことを見通し立てて行っているのか、不信感が増しています。 今ある施設を改善して利用していくことで解決できるならば新たに環境負荷をかけることはないと思います。説明会でも「フェリーが就航するにあたり、自動車運搬船との兼ね合いで最初はちぐはぐな部分もあったが、今はうまくいっている」というお話が市の職員からありました。人間がおこす利害関係、経済活性化を市民や県民、国民の税金や自然環境への負荷に頼った事業ではなく、人間同士の交渉力や知恵でのりきる方がこれから生きる地球人として必要なことではないかと思うのです。2025年度の横須賀市の予算案には、すでに7600万円あまりが新港埠頭計画に計上されています。市民のどのくらいの方がご存じなのでしょう。他に必要な事業があるのではないかと考えてしまいます。

項目	意見概要
大気汚染	船舶の排気ガスについて 埋立事業地区の近隣在住です。埋め立て予定地近くの平成埠頭には、ガット船が日常的に土砂を降ろす作業をしています。作業中の船舶からの排気ガスの悪臭で、風向きによっては窓を閉める必要がある状態です。また、その影響か、埠頭側の窓や網戸に油状の汚れが付着します。今回の新たなふ頭建設により、悪臭等が増悪しないか懸念しています。 2月23日の横須賀市の説明会に参加し、悪臭の件を質問しました。今後は船舶の排気ガスが低公害化し、EV車なども普及するので、懸念には及ばないとの回答でした。しかし、近隣に居住する者として、船舶の排気ガスの有害性について、不安が払拭できたわけではありません。船舶の排気ガスの有害性について、分かりやすい説明を望みます。 【本意見は「悪臭」にも記載】
	現在埋立予定地近くに住んでおりますが、船の排気ガスによる悪臭やそれに由来すると思われる汚れに困っています。 【本意見は「悪臭」にも記載】
水質汚濁	当該及び周辺海域は、ワカメの養殖、潜水漁業による高級貝類の採取及び回遊魚の豊富な漁場である。そこで、周辺海域の漁業の現況調査と、浚渫及び埋立に伴う水質汚濁等による影響評価が必要である。 【本意見は「植物・動物・生態系（水生生物・生態系）」にも記載】
	実施計画書p2-2-86(100) 図2-2-51 水生生物に係る指定水域と水質測定地点（海域）事業実施区域が海洋生物Aにあたるか海洋生物特Aにあたるかこの図では不明瞭である。 【本意見は「植物・動物・生態系（水生生物・生態系）」にも記載】
土壌汚染	浚渫土砂をそのまま埋立土砂に使うとのことであるが、周辺海域の水底土砂は、一定の割合で重金属が含まれている。従って、当該浚渫水域土砂の有害物質調査のみならず、埋立地の埋立工事中の土壌汚染調査及び工事完成後の土壌汚染調査とその影響評価が必要である。また当該浚渫水域土砂のPFASの調査も必要である。（例えば、周辺の水底土砂の砒素溶出量は、水底土砂としては環境基準をクリアしているが、陸上の土壌としては、環境基準を超えている。）
	埋め立て土砂について 浚渫した土砂を利用するとのことですが、不足している土砂をどこから搬入し、その土砂の安全性が十分に確保されるのか等、詳細なデータがわかりやすく公表されることを望みます。
	環境評価項目の追加希望について 説明会では埋立土砂は千葉県等から運んでくるということでしたが、その土質調査も必要かと思います。 「土質調査」も評価項目として明記し、現在の計測数値、予測評価を正しく計算し、公表してください。

項目	意見概要
騒音・ 低周波音	実施計画書によると、工事用車両等の主な走行ルート経路として、本学正面入口前の道路が予定されていることから、本学の教育・研究活動への騒音及び振動の影響が懸念されるため、現在設定されている調査地点に本学周辺を追加してほしい。 【本意見は「振動」にも記載】
	実施計画書によると、低周波音については、工事中や供用開始後に、その影響は想定されないと記載されている。しかし、環境省水・大気環境局環境汚染対策室が発行している「よくわかる低周波音（改平成31年3月）」によると、船・バス・トラックなどのエンジン音に低周波音が多く含まれるとの記載がある。そのため、本事業の実施に伴って発生すると考えられる低周波音が本学の教育・研究活動に影響を及ぼすかについて、本学周辺にて調査・予測・評価を行ってほしい。
	現在の新港埠頭に東京九州フェリーが就航する際、周辺住民から、夜間の接岸及び積み卸し作業に伴う騒音被害及び光害の懸念が多く出され、就航後も発生している。 従って周辺の多数のマンション住民等に被害を与えないため、予測される複数種類の船舶の接岸を想定し、それに伴う積み卸し作業に伴う騒音被害及び光害の影響評価が必要である。 【本意見は「その他（光害）」にも記載】
振動	実施計画書によると、工事用車両等の主な走行ルート経路として、本学正面入口前の道路が予定されていることから、本学の教育・研究活動への騒音及び振動の影響が懸念されるため、現在設定されている調査地点に本学周辺を追加してほしい。 【本意見は「騒音・低周波音」にも記載】
悪臭	水底土砂には、硫化水素等も含まれている可能性があるため、埋立地の埋立工事中の悪臭調査及び工事完成後の悪臭調査とその影響評価が必要である。
	船舶の排気ガスについて 埋立事業地区の近隣在住です。埋め立て予定地近くの平成埠頭には、ガット船が日常的に土砂を降ろす作業をしています。作業中の船舶からの排気ガスの悪臭で、風向きによっては窓を閉める必要がある状態です。また、その影響か、埠頭側の窓や網戸に油状の汚れが付着します。今回の新たなふ頭建設により、悪臭等が増悪しないか懸念しています。 2月23日の横須賀市の説明会に参加し、悪臭の件を質問しました。今後は船舶の排気ガスが低公害化し、EV車なども普及するので、懸念には及ばないとの回答でした。しかし、近隣に居住する者として、船舶の排気ガスの有害性について、不安が払拭できたわけではありません。船舶の排気ガスの有害性について、分かりやすい説明を望みます。 【本意見は「大気汚染」にも記載】
	環境評価項目の追加希望について 現在埋立予定地近くに住んでおりますが、船の排気ガスによる悪臭やそれに由来すると思われる汚れに困っています。 「悪臭」も評価項目として明記し、現在の計測数値、予測評価を正しく計算し、公表してください。 【本意見は「大気汚染」にも記載】

項目	意見概要
植物・ 動物・ 生態系 (植物)	うみかぜ公園には緑地もあり、植物が生育している。それが、移転されることにより植生や、緑地面積がどのように変わり、自然環境に与える影響についての工事中と供用開始後の調査、影響評価が必要である。
植物・ 動物・ 生態系 (動物)	実施計画書p4-1-31(325) 海鳥は時間帯によって出現種が大きく変化するが、1回あたり早朝、夜間調査も含め行くと明記すべきである。埋め立ての工事に伴い数年間出現する造成土壌面ではコチドリ等の集団営巣地として利用されることが予想できるため、埋め立て区域内も調査地点にすべきである。 実施計画書p4-1-33(327) ミティゲーションの計画に関わってくるため、予測方法は定量的な評価に改めるべきである。特に採食地として利用する海域面積が重要である。埋め立て工事に伴い成立した造成地に鳥類の営巣や希少な渡り鳥の一時的な滞在が確認できた場合、工法の調整をできる体制を明記すべきである。
植物・ 動物・ 生態系 (水生生物 ・生態系)	当該及び周辺海域は、ワカメの養殖、潜水漁業による高級貝類の採取及び回遊魚の豊富な漁場である。そこで、周辺海域の漁業の現況調査と、浚渫及び埋立に伴う水質汚濁等による影響評価が必要である。 【本意見は「水質汚濁」にも記載】 実施計画書p2-2-86(100) 図2-2-51 水生生物に係る指定水域と水質測定地点(海域) 事業実施区域が海洋生物Aにあたるか海洋生物特Aにあたるかこの図では不明瞭である。 【本意見は「水質汚濁」にも記載】 実施計画書p2-3-1(279) 浚渫により浅海域およびそこに成立する生態系が消失することから、質、量ともに同等の海洋環境を事業区域内外に創出するべき。 実施計画書p4-1-35(329) 藻場にあつては種類、被度だけでなく生育面積を測量すべきである。よって調査位置は観測ラインだけではなく面的調査となる。 実施計画書p4-1-36(330) 実際に消失する海生生物量を正確に把握するため、埋立区域内にも潜水目視、動植物プランクトン、底生生物、魚卵、稚仔魚、魚介類調査地点を設けるべきである。生物量が多いとみられる東側浚渫区域でも、動植物プランクトン、底生生物、魚卵、稚仔魚、魚介類調査地点を設けるべきである。 実施計画書p4-1-37(331)、p4-1-39(333) ミティゲーションによって確保すべき生物多様性を明らかにするため、海生生物の生息・生息への影響の程度については、消失する面積、生物量を定量的に予測評価するべきである。

項目	意見概要
レクリエーション資源	現在、休日になると多くの人々がうみかぜ公園でバーベキューや釣りを楽しみ、学校休業期間や平日にもBMXやスケートボードをするために若者が集っています。子どもの遊び場も長期間の工事を経て先日ようやく再開したところです。このままでよいのではないかな、と思います。 「あらまし」の表紙イメージ図をみると、駐車場が見当たりません。遊びに来た人は近隣のスーパーの駐車場を利用することになるのでしょうか。 また、沖へと公園がのびるので、遊んでいる人たちも奥の方へ引っ込むことになりそうです。現在でも、夜のうみかぜ公園はとても暗く、怖い場所です。それが、さらに奥に位置を移すということは、安全上、防犯上もあまりよくないのではないかと危惧します。 実施計画書p4-1-44(338) 公園利用以外で最も活発に行われているレクリエーションである釣りについて、事業実施区域内で適切な調査地点が設定されていない。事業実施区域内の既存護岸部分および東側浚渫海域付近でも調査を実施すべきである。 実施計画書p4-1-45(339) 釣り人数および公園利用者数は定量的に把握することが出来るため、予測についても定量的に行われるべきである。
温室効果ガス	実施計画書p4-1-46(340) ゼロカーボンシティ宣言をしている自治体による事業であるため、埋立および浚渫により失われるブルーカーボンによる炭素ストックについて、ボーリング調査及び測量により調査すること。 実施計画書p4-1-47(341) ゼロカーボンシティ宣言をしている自治体による事業であるため、埋立および浚渫により失われる炭素ストックと同量を事業区域内外に確保するよう藻場を創出するとともに、工事及び供用により発生した温室効果ガスはカーボンニュートラルのための措置を記載できるよう評価すること。
安全 (交通)	実施計画書によると、工事用車両等の主な走行ルート経路として、本学正面入口前の道路が予定されているが、この道路は学生の通学路になっているため、現在設定されている調査地点に本学周辺を追加し、交通量の状況や、日あるいは時間ごとの車両配分などの調査・予測・評価を行い、交通安全が十分に図れるようにすること。
その他 (光害)	現在の新港埠頭に東京九州フェリーが就航する際、周辺住民から、夜間の接岸及び積み卸し作業に伴う騒音被害及び光害の懸念が多く出され、就航後も発生している。 従って周辺の多数のマンション住民等に被害を与えないため、予測される複数種類の船舶の接岸を想定し、それに伴う積み卸し作業に伴う騒音被害及び光害の影響評価が必要である。 【本意見は「騒音・低周波音」にも記載】

項目	意見概要
その他	環境評価項目の追加希望について 全国でPFASが問題になっています。 「PFAS」も評価項目として明記し、現在の計測数値、予測評価を正しく計算し、公表してください。
	・責任の所在について 説明会で、環境評価についてはコンサルタント会社からの説明となりましたが、会社名は質問するまで紹介されませんでした。また、この会社、「今回は担当したが、事業を通してかかわるわけではない」との話。評価計画、環境調査、予測、環境影響の回避や低減評価とこれから続いていきますが、どこまでがどの会社の責任なのか、はっきりさせておくべきかと思います。 また、調査を行う機関やその結果などについても、その都度公表すべきです。
	・市民への周知について 私は2月23日に説明会に参加しましたが、大きな会場に13人しか集まっていませんでした。「広報よこすか」で説明会の開催を初めて知り、その後、マンションの掲示板にもお知らせが数日間貼ってありましたが、参加者は予想以上に少なく、びっくりしました。皆さん、あまり興味がないのでしょうか。市としては「周知した」わけですが、このような状況だと工事が始まってから「聞いてなかったよ」と抗議されかねないです。 まずは、もっと市民の意見を取り入れる努力が必要かと思います。説明会でも発言しましたが、 ① うみかぜ公園に出向き、利用者の生の声を聞く ② 市役所そばの小学校や中学校に協力を依頼し、子どもたちが望むうみかぜ公園のアイデアをもらう。 などの努力をなさってはいかがでしょうか。
	・さらに市民の声を集め、計画の実施を考える 各地区の自治会で議題に上げてもらい、意見を聞いてみるのはどうでしょうか。本当に必要な事業かどうかから、市民が参画すべきです。「事業実施段階ではなく、計画内容を検討している段階です」と、説明会パンフレット表紙に書いてある今なら、まだ間に合いますよね。7000万円は来年度の予算に計上されていますが、当初予算だと令和4年現在で総工費378億円と聞きました。昨今の価格高騰で20年後、最終的にどのくらいかかるかと考えると、踏みとどまるのも一案かと思います。